

＜２００７年農林水産研究成果１０大ピックアップ＞

農林水産技術会議事務局

＜タイトル＞

オーストラリア産に匹敵する高品質で、しかも多収。日本めん用小麦新品種「きたほなみ」－国産小麦の品質と生産性の向上に期待－

＜当該研究成果のポイント＞

北海道立北見農業試験場（農林水産省小麦育種指定試験地）は、小麦粉の色、うどんの加工適性がオーストラリア産小麦「ASW」に匹敵する品質で、製粉性が優れ、多収で穂発芽に強い日本めん用の小麦新品種「きたほなみ」を育成した。

本研究は、農林水産省指定試験事業により得られた成果である。

＜期待される効果・今後の展開など＞

北海道は国内産小麦の約６割を生産し、そのうち約９割は日本めん用品種「ホクシン」である。国内産小麦のめん用としての品質は西オーストラリア産小麦銘柄「ASW」に比べ粉の色や製粉性で劣っていたため、実需者からは改良を求められていた。新品種「きたほなみ」は粉の色や製粉性が改良され、うどんの加工適性が「ASW」に匹敵する品質である。また、収量が「ホクシン」よりも多く、穂発芽耐性や病害耐性が優れているなど、栽培適性も改良されている。

以上のことから、「きたほなみ」は「ホクシン」に替わって栽培されることにより、国内産小麦の生産性と品質、両方の向上が期待される品種である。

＜研究所名＞

北海道立北見農業試験場
農林水産省小麦育種指定試験地

＜担当者名＞

北海道立北見農業試験場作物研究部麦類科
農林水産省小麦育種指定試験地 主任 吉村康弘

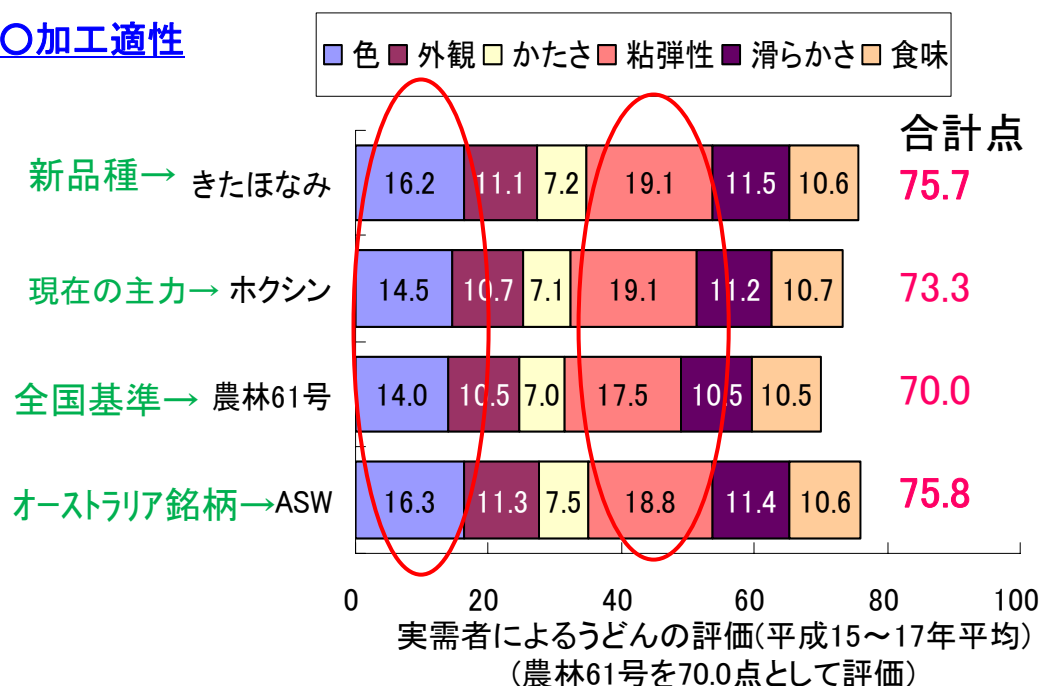
＜連絡先＞

北海道立北見農業試験場 作物研究部
作物研究部長 吉良 賢二 TEL 0157-47-2146

オーストラリア産に匹敵する高品質で、しかも多収。 日本めん用小麦新品種「きたほなみ」

－国産小麦の品質と生産性の向上に期待－

○加工適性



「きたほなみ」は、ゆでうどんの色がきれいで、実需者による評価で「ASW」の点数に匹敵

○農業特性

北見農試での試験成績(平成15～17年平均)と
各種病害・障害抵抗性

	きたほなみ	ホクシン
収量(kg/10a)	851	748
原粒灰分(%)	1.37	1.46
耐雪性	やや強	やや強
赤さび病抵抗性	やや強	やや弱
うどんこ病抵抗性	やや強	やや強
赤かび病抵抗性	中	やや弱
コムギ縞萎縮病抵抗性	やや弱	弱
穂発芽性	やや難	中

「きたほなみ」は病気や穂発芽に強く、収量が多い